

令和 8 年度第 1 回豊田市ジェンダー平等推進懇話会会議録

- 日 時 令和 8 年 6 月 19 日（金）午後 2 時 30 分～3 時 45 分
- 場 所 豊田市ジェンダー平等推進センター 21 会議室
- 出席者 懇話会委員 石田路子（座長）、吉野まり子（副座長）
鈴木直子、金原良平、加藤史、石田祐己、橋本恵利、茂木明子、
千代谷清子

事務局 地域活躍部部長 青木
豊田市ジェンダー平等推進センター 吉野、大澤、山内

欠席者 懇話会委員 岩瀬憲太郎

1 開会

青木部長挨拶

2 議事

（1）クローバープランVの令和 7 年度実績について

事務局が資料 1 に基づき説明。

<意見>

H 委員

LGBTQ+に対する理解促進について、他市でも同様の項目はあるが、豊田市は市民活動団体との連携を明記していただいているところは心強い。啓発のイベントをやらせていただいて、市民活動の立場として行政と企業をつなげたこと、企業の取組の方針を立てるモデレーターとして活動でき良かった。啓発イベント自体もあるが、その取組のやり方進め方も発信できればもっと発展できるのではないかな。

2 点目は、性的少数者への理解講座において、最近は単に LGBTQ+ というテーマだけでは新鮮味がなくなっている。どうしてもハラスメントやアンコンシャスバイアスの中で LGBTQ+ が使われることが増えているのが現状。社会の良い変化の一つの証拠ではあるが、一方で LGBTQ+ としての活動が難しくなっている。

F 委員

男性の家事・育児への主体的参画の促進はすごく大事だと思う。昨年度は男性向け講座を 2 回開催し、延べ 35 人参加とあるが、他市では連続して講座を行い、コミュニティが出来ることで次の世代へとつながり、仲間がいることで孤立しない社会になっている。つながることが重要であると感じた。

こども若者向けの教育という点で、教職員へジェンダー平等の講座を 1 回実施とあるが、1 回の講座で知ることはもちろん大事だが、一過性に終わってしまうともったいない。価値観はすぐには書き換えられることではないので、未来の世代を育てる人たちには継続的な取組

	になると良いと思った。
事務局	男性向け講座については、今年度は回数を増やして拡充していく予定である。連続講座については、内容を精査し計画を立てていく必要があるので、来年度に向けて他市の状況を調査しながら検討してきたい。
G 委員	女性が活躍できる環境について、企業のマインドで「女性でもリーダーになれる」と使う時があるが、それ自体が男性基準の表現になっている。考え方を変えていくのが大きいのかなと思った。
事務局	豊田市は製造職の強い街なので、女性にとってまだまだ働きやすいとは言えないかもしれない。どうしたら企業の中で、特に上の年代の方々にアプローチできるのか、アイデアがあれば教えてほしい。
G 委員	アンコンシャスバイアスの研修を立ち上げて、管理職の参加は必須にした。一方で女性のリーダー像についても、いままでの男性リーダーのように振舞わなければならないという事ではなく、いろんなリーダーのあり方があることを踏まえ、両面から意識を変え始めなければならない。
C 委員	意識の変革は本当に時間がかかる。アンコンシャスバイアスに迷い込んでいる人が多い。女性活躍推進法が改正されて、問題の可視化がされる。家庭の中の話題になってほしい。
I 委員	世代によってだいぶ変わっているのは感じている。男性が育休をとることが大事。実体験がバイアスや当事者意識を変えていく。後押していく行動が大事。
D 委員	育休経験者の意見などを共有できたら良い。育休取得に関して職場に対する申し訳なさからポジティブな面を言えずにいるのではないかな。前向きな面についてもっと口にできる場が増えて欲しい。
A 委員	無意識の偏見、家庭の中の日常の名前のないような家事は、男女共同参画が始まって何年もたっているが、なんとなくで女性が引き受けているのではないかな。まだ家庭の中では女性が主になっていると感じる。
E 委員	会社組織では、上の人達で決まったことがどんどん実務者におりてくるが、決まる過程のねらいやゴールを知らないままやるので、そこで手戻りが発生する。物事を決める会議には女性を必ず入れるようにしている。マインドが変わって、最終的に男女がかかわらず活躍できるようになるのではないかな。
I 委員	普段企業の方の話をきくことがないので、学校とでは感覚が違うと思った。学校では管理職の女性は珍しいわけではない。育休については、取ってしまうと誰かが変わりをしなければならなく、人手不足で人がいないので、権利はあるけど取りにくい状況になっている。いろいろな問題を同時に考えていかなければいけないと思った。 学校はジェンダー平等に関しては平等な方であると思っていたが、ここ1年でまだまだ平等ではないと感じた。教科書の内容も気が付いて

D 委員

いないが意外と平等でないところがある。例えば料理をしている人のイラストは女性、医者は男性。学校の先生自体も気が付いていないが、そこに気が付いていかないといけない。まだまだ平等でないと感じた。

B 委員

地域の委員で女性が少ないのは企業と同じで、委員は年配の方が多いので、そこに女性が入るのは大変ではないか。アンコンシャスバイアスの研修を区長さんや民生委員さん達に受けていただくとすごくいいと思う。

2つ目は、長年小学校で読み聞かせをしているが、11月の人権週間の時に、今回はジェンダーに関する本を読んでみようと思った。

地域の長は男女それぞれ選出していく、そのようなドラスティックな政策をしないとこれからも変わっていかないと思う。

意思決定の場の女性参画において、県内においては女性の参画は全体的には増えてはいるが、豊田市はそこが増えていかないならば、豊田市は女性参画が低いといわれ続けてしまう。

(2) クローバープランVの令和8年度実施予定事業について

事務局が資料2に基づき説明。

<意見>

H 委員

市民活動として、一緒に取組ができてありがたい。

企業に属している方にはアプローチはしやすいが、企業に所属していない方に届けるには、開かれた場でやることが重要だと考えている。様々な市民が集まるイベント時の啓発活動は周知の点からとても良いので、引き続き取り組んでいきたい。

ようやく日本全国で少しずつ性の多様性に関するサービスが生まれてきている。これまでNPOや市民団体などが担ってきた分野に、営利企業が進出しはじめている。理解促進をやっている先に、どんどん新しいサービスが生まれることにつながるので、広い視点を持って引き続き理解促進の啓発を行っていきたい。

3 閉会

所長挨拶